

1. 名簿作成と評議員選挙について

今年は名簿発行の年になります。会員の皆様のもとに住所確認のはがきを送付させていただきますので、ご協力をお願いします。また、評議員選挙（日程：平成14年9月?10月上旬）が行われます。後日、投票用紙を送付いたしますので、投票していただくようお願い申し上げます。

2. 土壌物理学会「拡大評議員会」議事録

日時：4月2日（火曜日）12:00-12:55

場所：土壌肥料学会土壌物理部門会場

（名城大学天白キャンパス・理工学部）J会場
（303室）

出席者：

評議委員：宮崎 毅・粕渕辰昭・谷山一郎・筑紫二郎・加藤英孝・成岡 市・山口紀子・溝口 勝
オブザーバー：田渕俊雄・波多野隆介（北大）・吉田正則（近中四農研セ）・木場稔信（道立根釧農試）・渡辺晋生（三重大）・柳澤 剛（明大農研）・中野恵子（農環研）・須甲武志（東大院）・横濱充宏（北海道開発土木研究所）・長谷川周一（北大）・石黒宗秀（岡山大）・鈴木克拓（農環研）・前田守弘（中央農研）・江口定夫（農環研）・藤川智紀（東大院）

事務局：関 勝寿・井本博美

議題：

宮崎土壌物理学会会長より、拡大評議委員会の趣旨説明の後、以下のことを議論した。

1. 各学会における土壌物理部門の連携について

・主な学会の部門長より最近の土壌物理学に関連した情勢の説明があった

① 学術会議・国際情勢に対応した関連学会の動き（岡崎）

IUSS（International Union of Soil Science）の枠組に対応した日本組織

② 土壌肥料学会における土壌物理部門の動き（波多野）

3部門（環境・保全・地球環境）を2部門に整理

③ 農業土木学会における土壌物理部門の動き（山本：宮崎よりメールの紹介）

農土学会では土壌物理が活発。土物学会で土壌

劣化への対応を

④ 土壌物理学会の果たせる役割（宮崎）

学際的・複合的なテーマを積極的に扱うようにする

・議論：上記の情勢説明を受けて、会場の方々から以下のような意見を頂いた

（田渕）学術会議や国際会議での方向を考慮すべき。農学部門か工学部門か？

（粕渕）土肥は化学、農業土木は工学、土壌物理はサイエンスを扱えば良いのでは。

（石黒）基礎学に加えて多様性への対応が必要。複雑学のシンポジウムを考慮。

（谷山）発足は学際的だった。土壌物理を基礎において他分野のテーマも含めて検討すればよい。

（山口）土壌物理はいろんなことを扱う手法が特徴。手法をやる人の集まりでも良い。

（長谷川）物理性の確認はかなり応用的。今までやってきた方法を変えない方がよい。

（波多野）研究会から学会になったことで基礎と応用をまとめることができる。土壌物理のサイエンスを踏まえてやってほしい。

（成岡）学術会議への参加団体は地域農学分野でよいか？

2. 第44回（平成14年度）土壌物理シンポジウムのテーマについて、事務局より下記の案が披露された。テーマ決定については、引き続き事務局で検討することにした。

テーマ案：

① 新しい計測システム

② 食料自給を支える土壌基盤

③ 土壌中のガス動態

④ その他

日程案：2002年11月23日（土：勤労感謝の日）

東京大学農学部弥生講堂

3. 土壌物理学会ポスター発表におけるレフリー制の導入についての以下の説明があった。具体的には事務局でさらに検討することになった。

・投稿規定および審査基準規定の整備

・査読委員を編集委員会から3-4名を指名

・2週間前に要旨原稿締切（インターネット）

・1週間前に審査結果報告（インターネット）